

令和5年度学校関係者評価

足立区立中川北小学校
開かれた学校づくり協議会
会 長 石上 昌弘

1.はじめに

中川北小学校の教職員の皆様には、日頃より「中北っ子」のために、加瀬校長先生を先頭に献身的なご努力をされていることに改めて感謝申し上げます。

開かれた学校づくり協議会としても5回の協議会を開催し、給食試食会や講演会(2回実施)、授業参観、土曜事業に取り組むことができました。そこで今年度は学校関係者評価の考察をすることになりました。

2.学力定着に向けて

足立区の学力定着度調査によれば、学校全体で国語が目標値の通過率が80.0%となり、令和4年度より2.6ポイント上昇した。「書くこと」と「読むこと」は他教科においても基礎基本となる能力であり、書かれていることを正確に読み取る力、主語・述語を意識して文章を書く力を育成することが必要と考える。算数では、同様に通過率が86.3%となり、4.3ポイント上がった。問題を理解し筋道を立てて考え表現する力の育成を図り、基礎的基本的内容の定着に個別指導の充実を図ることができたと考える。

学習意識調査の分析では、家庭学習の方法を具体的に示し、保護者と協力し家庭学習の習慣化を更に図る必要があると考える。引き続き、放課後寺子屋教室や学校図書館の利活用により家庭学習の効率化を図っていただきたい。

3.学力向上への主な取り組み

- 週4回のモジュール学習では、基礎的な学習を実施した。昼休み後に、中北ミーティング・スポーツtime・読書・児童集会を行う等時程を工夫しモジュール学習を確保した。
- 放課後寺子屋教室で開かれた学校づくり協議会委員も協力し補習を行った。地域の方のとのふれあいからやる気を見せる児童が増えた。
- 家庭学習習慣の定着を図るため、学習がんばりカードを使用し、低学年30分、中学年45分、高学年60分を目安とする時間設定を示した。
- 校内授業研究では、「分かる喜び、できる喜びを感じられる授業について研究し、児童の学びを支えるための教員の指導力向上を図った。